

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2023

令和5年
5月1日発行

No.65

題 字：佐藤 ^{やすなが} 安良さん (夫沢)



0歳児から入園 みんなと楽しく遊びましょう (認定こども園学び舎ゆめの森)

3月
定例会

令和5年度一般会計当初予算を承認 ③

重点事業クローズアップ ④

町政を問う 一般質問 ⑧

サークル紹介 梨の実サロン平 ⑩



スマートフォン
でも見られます

41議案を議決

定例会のあらまし

令和5年第1回定例会は3月7日から17日までの11日間の日程で開催されました。

第1日目に町長から復興へ向けた施政方針が示されました。

そのほか条例の制定および一部改正、工事請負契約および変更、町道路線の変更および認定、令和4年度一般会計および特別会計補正予算、令和5年度一般会計および特別会計当初予算など40議案が提案されました。

第2日目は4人が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案などを取り上げ、町民第一主義の様々な角度から熱く町政をただしました。

第10日目の本会議では条例の制定および一部改正、工事請負契約および変更、町道路線の変更および認定、令和4年度一般会計および特別会計補正予算など29議案を審議し、全議案を原案通り可決しました。また追加で提出された請願書を全会一致で採択しました。

最終日の本会議では令和5年度一般会計および特別会計当初予算など11議案のほか教育長人事案が追加され全12議案と請願書の意見書提出を併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ18人でした。

復興の新しいシンボルへ



町の新たな顔になる駅西エリア

町長施政方針の要旨

復旧・復興

・第三次復興計画では、特定復興再生拠点区域内にスポーツ施設を整備するなど、土地利用をより具体的に描いていく。

ゼロカーボン

・ゼロカーボンの象徴的な場所として大型蓄電池等を導入する下野上スマホ構想を推進する。

住宅・生活支援

・大野南住宅エリア、原住宅エリアの再生賃貸住宅計50戸を令和5年度末の竣工を目指す。

原住宅エリアの宅地分譲を令和6年度春の開始を目指す。

・帰還促進や借上げ住宅制度終了を見据えて既に制度化している住宅の修繕、家賃に関する補助制度を帰還者にも拡大する。

下野上地区復興拠点

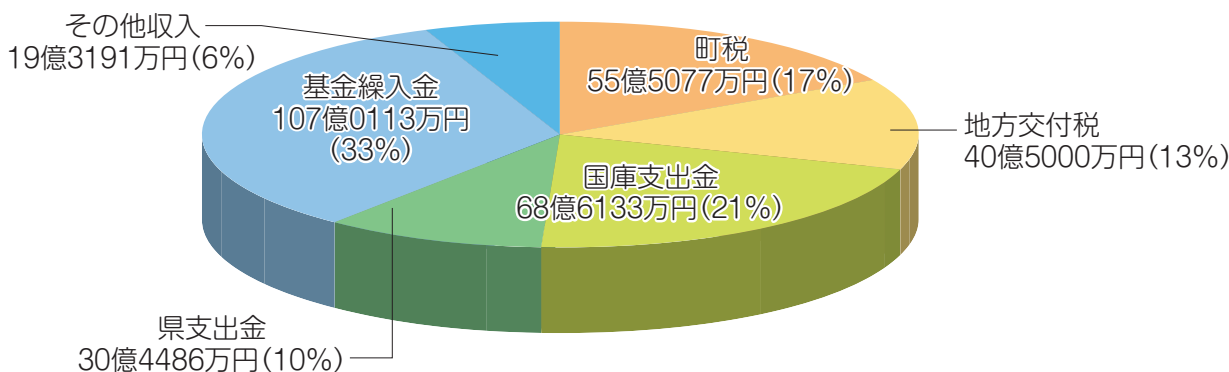
・町復興の新しいシンボルとなる大野駅西交流エリア整備では、産業交流施設が年内に着工。商業施設・広場は設計に着手する。また両施設とも令和6年12月開業予定。

・大熊中央産業拠点では、令和5年度中にすべての区画整備が完成するため、本格的な企業誘致活動を展開していく。

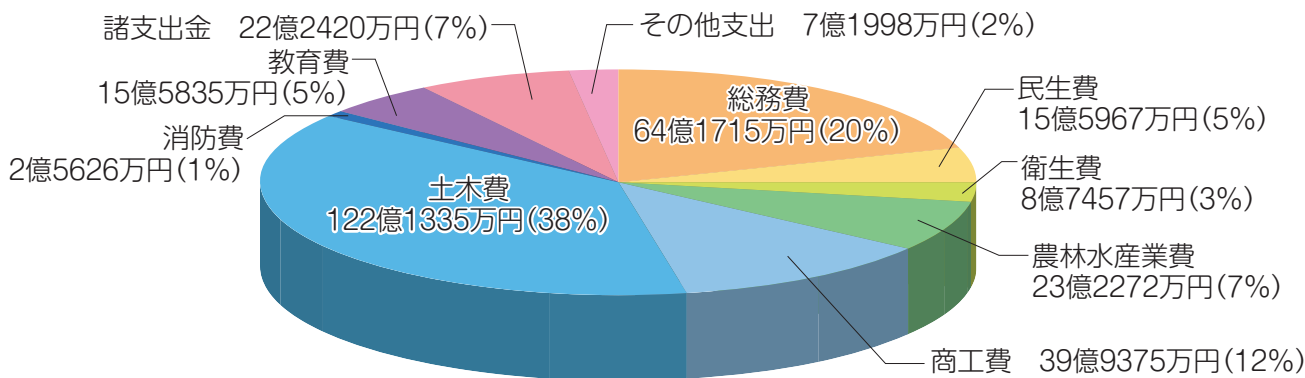
令和5年度 予算を承認 一般会計総額321億円

新年度予算は、下野上地区復興拠点整備、農地防災整備事業、スマートコミュニティ整備事業、教育施設整備事業などを柱とした、大熊町再生に向けた321億4000万円の予算となりました。
主な内訳を報告します。

歳入(収入) 合計：321億4000万円



歳出(支出) 合計：321億4000万円



特別会計 合計：54億83万円

会計	予算額	会計	予算額
坂下ダム施設管理	6400万円	住宅団地造成	1万円
国民健康保険	19億8577万円	工業団地造成	16億9260万円
奨学金貸与	1255万円	介護保険・サービス事業	11億5205万円
環境保全公共下水道	3億5114万円	後期高齢者医療	2853万円
農業集落排水	1億201万円	霊園管理	1218万円

(万円未満四捨五入)

令和5年度 重点事業クローズアップ

大野駅西 商業施設整備

1億
4000
万円



産業交流施設と合わせて先行開業を予定している商業施設の基本設計や実施設計を進めていきます。

定住促進補助

3億
1500
万円



帰還者、移住者問わず定住促進として、土地や住宅取得、既存住宅の修繕等に掛かる費用を補助します。

除染後 宅地除草

1億
1400
万円



復興拠点区域内の希望者を対象に宅地除草を実施します。

避難者 コミュニティ補助

760
万円

福島県内外で活動する17コミュニティ団体への補助金です。

除草剤配付

3860
万円

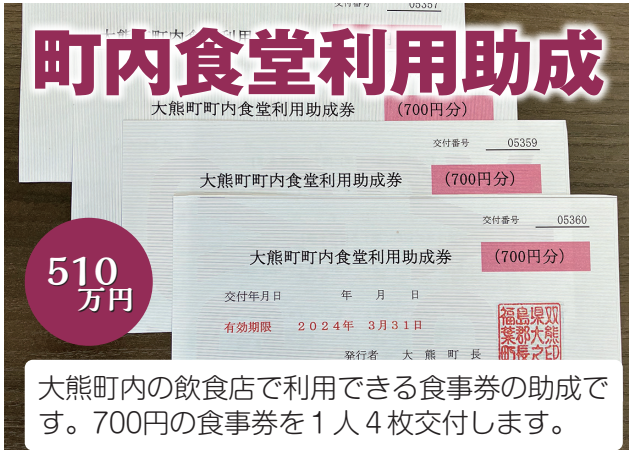


生活再建支援として除草剤を1世帯あたり3箱配付します。

※写真はイメージです

町内食堂利用助成

510
万円



大熊町内の飲食店で利用できる食事券の助成です。700円の食事券を1人4枚交付します。

(万円未満四捨五入)

住宅費補助 すでに取得した方も対象

第1回定例会にて令和5年度当初予算の審議をおこないました。その中から主な質疑内容を報告します。

定住促進補助

問 定住促進補助事業で、新築住宅と中古住宅の取得費や既存住宅の修繕費を補助するということだが、申請方法はどのくらいいいの
か。

答 また既に住宅を取得した方も対象になるのか。

答 契約書と領収書を添えて申請する。すでに住宅を取得した方も対象となる。

移住定住センター 重点事業

問 今年は3点の重点事業を実施するがその内容は何か。

答 1点目は移住を前に町での生活を体験していただくお試し住宅運営。
2点目は大手求職サイトを利用し求人に合った人材を直接スカウトする、またインターシップ受入を進め移住につなげていく。

3点目は都市部で行われる移住フェアに参加しVR動画等でPR活動を実施していく。

移住・定住

問 広報活動を実施することのことだがどのような活動を想定しているのか。

答 移住・定住に特化した町の魅力を紹介した動画や先輩移住者の体験談等を作成する。今後、町民を含めた広報チームを編成し町の魅力発信を進めていく。

人間ドック検診助 成金

問 助成制度の目的は何か。

答 国民健康保険に加入している町民のうち町が実施する検診を受けない方を対象に人間ドックおよび脳ドック受診費用の一部を助成する。

防犯灯・防犯カメラ 設置

問 学び舎ゆめの森開校を見据えて設置する場所は。

答 子育て支援住宅から学校に通じる町道、商業施設から学校へ通じる町道に太陽光等自然エネルギーを活用した防犯灯を設置する。また校門付近に一基と防犯カメラを設置する。

カーシェアリング

問 今年度で事業は終了予定だが次年度の事業継続は考えているのか。

答 実証事業を通して得られたデータや利用者等の意見を基に公共交通機関の選択肢としての事業の採算性や継続性について具体的に検討を進めていく。

復興支援員

問 支援員6名を採用するが配置および主な業務予定は。

答 現在3名に活動していたが、今年度は9名体制として、おおくままちづくり公社、ネクサスファーム、クマプシおおくま等に配置する。

共有地相続人調査

問 この調査の目的は何か。

答 固定資産税課税のため町内共有地の相続人調査を実施する。

町民税減免 新年度も継続

第1回定例会にて令和4年度一般会計補正予算の審議を行いました。その中から主な内容をお知らせします。

**ため池放射性物質対策工事
3億6760万円減額**

町内のため池のうち「寺屋敷ため池」「妙見ため池」「新溜ため池」の放射性物質対策工事において、工事発注前の設計内容精査、工事期間中の作業量の見直し等により減額するものです。

**再生可能エネルギー見える化システム構築委託
3810万円減額**

再生可能エネルギーの発電・消費状況の見える化システムを構築予定であったが、るるるん電力株式会社にて同システムを運用しており、新たに構築する必要がなくなったことから減額するものです。

条例制定

第1回定例会にて条例制定および一部改正の審査をしました。主な内容をお知らせします。

町税の減免条例制定

避難生活が継続していることから原子力災害対策特別措置法に基づき、町民税減免の他、固定資産税、軽自動車税および国民健康保険税なども減免措置されます。

町民税の減免割合

令和4年中の合計所得金額	減免割合
300万円以下	全額
300万円を超え400万円以下	10分の9
400万円を超え500万円以下	10分の7.5
500万円を超え750万円以下	10分の5
750万円を超え1000万円以下	10分の2.5

人事

教育長に 佐藤由弘氏を新任

大熊町教育委員会教育長の人事案件が追加提出され、全会一致で同意されました。
※佐藤由弘氏は学び舎ゆめの森で校長を歴任されました。

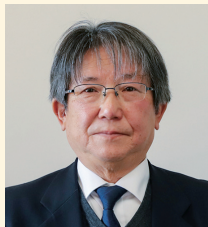


【出身】相馬市
【任期】令和5年4月1日～

監査委員に 末永清一氏を新任

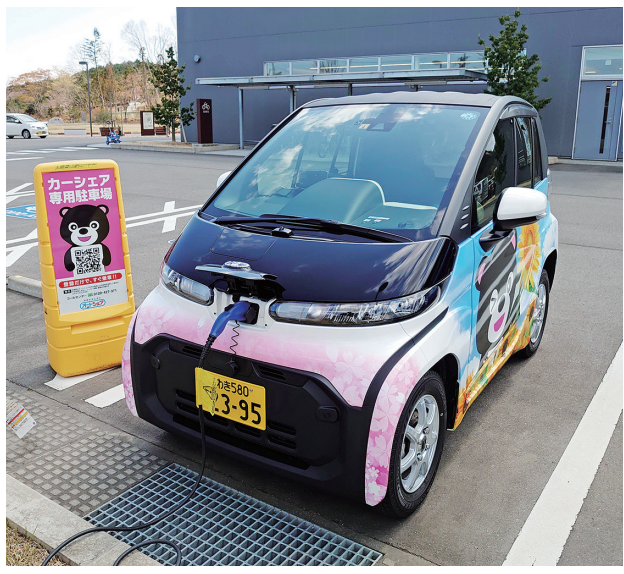
1月26日に開かれた第1回臨時会において監査委員の人事案件が提出され、全会一致で同意されました。

※末永清一氏は大熊町役場で福祉課長、いわき出張所所長などを歴任されました。



【住所】大熊町大字熊
【任期】令和5年2月1日～

町内での新たな交通手段 カーシェアリング



さらなる利用増加に期待

第1回定例会にて令和4年度補正予算の審議を行いました。
その中から主な質疑内容を報告します。

カーシェアリング

問 町の新たな交通手段として期待されるが登録人数と利用回数はどのくらいか。

答 登録人数は84名で利用状況は延べ232回である。

消防団 アシストアプリ

問 導入によりどのような利用効果が期待できるのか。

答 火災発生時に消防団員が火災発生場所や消火用水利をスマートフォンで確認し迅速な対応が期待できる。

コミュニティ支援 委託

問 避難者コミュニティ支援業務の採用者が減少したとのことだが何故採用予定者が減少したのか。

答 復興支援に求める条件に合致しない方が多くいたためである。採用者は当初4名予定していたが1名となった。

屋根補修

問 災害復旧事業のうち屋根補修は何件想定していたのか。また、実績は何件だったのか。

答 今年度想定していた件数は20件であり、そのうち補修実績は4件であった。

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める請願書の審査を行いました。

**福島県は全国31位で
時給858円
最低賃金引き上げを**

請願書の主な内容

- ①政府の「骨太の方針2022」で早期に全国平均1000円を目指す
- ②諮問時期は可能な限り早期発効を求める

請願者

日本労働組合総連合会 福島県連合会
双葉地区連合会 議長 鯨岡 圭介

住所

福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

紹介議員 渡辺 誠

付託委員会 産業厚生常任委員会

処理経過 全会一致で採択、意見書提出

提出先

内閣総理大臣 岸田 文雄
厚生労働大臣 加藤 勝信
福島労働局長 河西 直人

請願審査



ゼロカーボン推進に向け太陽光パネルを設置（大川原地区）

4人が一般質問

ズバリ
町政を問う

復興への課題をとらえて

1. 渡辺 誠 議員 9
 帰町者に修繕費用を補助すべき
 給付型奨学資金を増額すべき
2. 西山 英 壽 議員 10
 接種対象を拡充すべき
 高校生のため町独自の給付制度新設を
3. 仲野 剛 議員 11
 公用車のリース化を提案する
4. 木幡 ますみ 議員 12
 震災前の歴史文化をデジタル化すべき

渡辺

誠議員



問 帰町者に修繕費用を補助すべき

答 帰還者にも補助を拡大



定住に向け自宅を修繕します

渡辺 家屋を解体して町の住宅支援を利用して新築するには経費の面で負担が大きい。ならばリフォームして住みたいが、こちらには補助制度がない。町民の嘆きが聞こえる。

町長は住まいの補助について、帰町者への補助は移住者への支援と比較して差があるとの認識をされているようだ、それでは差を埋める施策の一つとし

て住宅のリフォームに手を差し伸べてはどうか。

て住宅のリフォームに手を差し伸べてはどうか。

補助することによって帰町への想いを後押しするのではないか。

また家族らと町に帰る機会が増えるものも期待される。

町長の所見を伺う。

町長 帰還促進のため移住者向けにすでに制度化している定住を目的とした住宅の取得お

よび修繕に関する補助制度を一部修正したうえで帰還者にも拡大する方針とした。

具体的に住宅の取得や修繕の費用二分の一

を補助するもので、上限について新築取得は500万円、中古取得は200万円、修繕は300万円としたい。議員提案の通り、こ

の補助制度が避難されている方々の帰町への想いを実現するもの、そして後押しするものと期待している。

問 給付型奨学資金を増額すべき

答 検討委員会で議論を進めていく

渡辺 社会情勢の変化で学生を取り巻く経済的な環境は厳しさを増している。さらに物価高騰などで保護者の家計はますます圧迫されている。

ら10万円に増額すべきである。

学生が安心して勉学に励むことができ、また保護者の経済的な負担の軽減が図られる。町を担う人材育成のためより積極的にサポートしてほしい。

町長の所見を伺う。

種見直しを図り資格基準を緩和する施策を実施してきた。給付金の原資は町民の寄付で賄っており、残額が減少の一途をたどる中、今後財政的な施策を考えていく必要がある。

そこでこれまで以上の学生への支援が必要と考え、町の給付奨学生の拡充と給付額の増額を提案する。

資格基準を緩和するとともに大学入学時の

入学金を20万円から30万円に、月額5万円か

町長 平成29年度に保護者や学識経験者で構成する「給付型奨学資金検討委員会」を組織し、門戸を拡充する各

奨学資金のあり方について総合教育会議において教育委員会に諮り、検討委員会においてより議論を進めていく。

西山 英壽 議員



問 接種対象を拡充すべき

答 全年齢を対象とする必要性はない

予防接種助成

西山 現在町では町民が疾病予防のため任意予防接種をした場合の助成制度の範囲等が限定的である。

そこで、現在予防が必要とされる任意予防接種を実施した場合の接種費用助成をする制度を見直し、対象を拡充することを提案する。

一例として、インフルエンザワクチン接種の全年齢を対象とすることや、带状疱疹ワクチン接種などの対象を拡充してはどうか。

町民の疾病等予防の強化および町民自らの主体的な健康づくりを推進し、安心して生活が送れるよう、任意予防接種費用の助成制度の見直しを行い、対象を拡充すべきと思うが町長の考えを伺う。

町長 任意予防接種については、国が使用を認めているものの、予防接種法で規定されていないものであり、接種費用は、原則個人負担となるものである。

任意接種の対象拡充であるが、インフルエンザ予防接種については重症化リスクのある高齢者等や罹患率の高い学童期の子ども達にすでに対象として助成を行っているところであり、全年齢を対象とする必要性はないと考えている。

また带状疱疹ワクチンについては、現在国において定期接種化の議論が実施されている段階であり、国の動向を注視しながら検討していく必要があると考えている。

高校生応援金

問 町独自の給付制度の新設を

答 検討を進めていきたい

西山 町の支援制度が受けづらい高校生に、町独自の「高校生みらい応援金給付制度」の新設を提案する。

例として、高校3年間でかかる、制服、運動着、学用品、教材等の購入費用の一部や学習、部活動にかかる費用の支援として、応援金を給付してはどうか。

応援金給付制度の新設による教育支援により、高校生を持つ子育て世帯の経済的負担の軽減が図られるとともに、在学中およびこれから進学する子育て世帯の帰還意識の向上、促進、新規移住にも繋がることも期待されると思う。

町長 当町の高校生への就学支援としては、町内に居住する高校生に対する通学費支援制度を設けたところである。また、現在町内には当該支援制度の該当者はいないが、帰町する町立学び舎ゆめの森に在学する後期生徒が次年度受検を控え、やがて令和6年度に高校進学が学齢に達するこ

とから、当該子ども達のご家族等からの意向を調査し、これを施策に反映して行く必要があるものと考えている。

その上で、今後の帰町・移住促進に資するよう、関係部署と連携を図り、当町の高校生への就学支援に関して検討を進めていきたいと考えている。



安心して勉学に励めるように

仲野

剛議員



問 公用車のリース化を提案する

答 順次リースに切り替えていく

仲野 平成16年の地方自治法改正により、長期の継続契約を締結することが可能となった。本町でもコピー機、AEDなどリース契約しているものが多数あると理解している。公用車についても各課で購入管理するのではなくリース化により一体管理することを提案する。

メリットとしては車検も含めたリース料となり、予算の平準化ができる。窓口の一本化が可能となり車両管理の事務量が軽減できる。経年による事故トラブル等の懸念を回避できるなどが想定される。もちろんデメリットもあると思われる。短期で使用する車両、特殊車両などは費用対効果の検証が必要となり場合によってはリースが馴染まないケースもあるかと思われる。しかし多くの民間企業や自治体で導入されており、効果は明らかである。

町長 町が存続するには行政が機能することが大切である。様々な業務の効率化により職員の負担を軽減する必要がある。そのひとつとして公用車のリース化を提案する。

町長 公用車をリース化することによるメリットは大きく、職員の車両管理の負担軽減、予算管理の簡易化など業務の煩雑さを軽減し事務効率向上につながるものと理解している。そのため総務課において初年度登録が古い車両、走行距離が多い車両から、順次リースに切り替えていきたいと考えており、令和5年度当初予算に公用車



リースによる一元管理を推進

リースの予算を計上している。また特殊車両、車種によってはデメリットも考えられることからその際は今まで通り購入もあり得る。今後はリースでの運用実績を踏まえ、総務課でのリースによる一元管理を推進していきたい。

木幡ますみ 議員



問 震災前の歴史文化をデジタル化すべき

答 広く情報収集を行っていく

木幡 大震災、原発事故により中間貯蔵施設ができ、辺り一体黒いフレコンバッグで覆われているさまは、震災以前の大熊町には全く無い風景でした。

このような風景しか知らない子ども達の目にどう映って行くのか。

大熊町はこんな風景しか無い町と思われてしまつのではないかと心配される。また住民にとつても悲しいことであると思われる。子ども達の故郷に対する風景や歴史文化を知ることが教育のためにも、移住者の方々に



毎年盛況だったふるさとまつり

町長 **町長** 中間貯蔵施設整備、復興事業が進む中震災前の大熊町の風景が失われつつあるのは議員指摘のとおりである。

町では町の歴史文化を保護するため早期か

とても大切と考える。温故知新、故きを温ねて新しきを知る。こういった歴史などもしっかり取り入れ震災以前の大熊町の風景や文化をデジタル化して残すべきである。楽しく子ども達や移住者の皆さんが学習することができ、私達の記憶も忘れられず記録されていくことに楽しさを覚えていくのではないかと。今後懇談会を開催し意見をとり入れ、いつまでも残る良いものを作るべきではないかと。町長のお考えを伺いたい。



駅前の歩行者天国

ら個人文化財レスキューに取り組んでおり、復興の足跡を定期的に定点撮影し変化する町の風景についてデジタルも含めた記録として残していく。

しているので、インターネット上で資料を閲覧できる機能を用いた地域資料情報の公開や活用については検討している。

町民への聞き取り調査について令和6年に町政施行70周年になるので、3回程度の聞き取りイベントを実施し広く情報収集を行っていくべき世につなげていきたいと考えている。

町民の声を 設計に反映すべき

2月13日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容を報告します。

整備計画

産業交流施設と商業施設は令和6年12月の開所を目指している。計画については、商工会長や行政区長会長などの意見を聞き進めていくとの説明がありました。

委員からは各施設の計画については、関係者の意見だけではなく利用者である町民の意見をしっかりと聞き、設計に反映すべきとの意見がありました。



産業交流施設の完成予想図

子ども達の安全を 最優先に

2月20日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容を報告します。

調整池

下野上一団地事業のうち原住宅エリアへ整備予定の調整池について調査を行いました。

原住宅エリアへ整備する調整池は、平地部を掘り込む「掘り込み式」と地下貯留槽を地下面に設置する「地下式」を計画しているとの説明がありました。

委員からは、掘り込み式の場合は万が一子どもが立ち入り、事故が発生しないようフェンス等安全面についてしっかりと検討すべきとの意見がありました。

雨水排水側溝

下野上地区駅西工区の雨水排水計画について調査を行いました。
大野病院東側道路に

高線量の土砂が流入した経緯があったことから、雨水排水経路変更を検討している。

雨水が流入する箇所には側溝が設置されていないことから、当該箇所へ側溝を設置し流入方向を夫沢川へ流れるよう変更していくとの説明がありました。

委員からは、側溝を設置する際には流入先へ確実に流れるよう設置する深さ、勾配等をしっかりと確認後設置すること。

また、設置後は大野病院東側への流入の心配はないとのことだが、定期的な確認もしっかり行つべきとの意見がありました。

下野上1区から 先行除染開始

3月1日、全員協議会にて内閣府原子力災害現地対策本部と町から、特定復興再生拠点区域外の除染、避難指示に係る今後の進め方について説明がありました。

説明要旨と主な質疑について報告します。

国からの説明

政府の方針として、

2020年代をかけて拠点区域外に帰還意向のある住民が帰還できるような個別に丁寧に把握し、帰還に必要な除染を進めながら避難指示解除につなげることにしました。

今回の福島復興再生特別措置法の改正案において市町村長が住民の帰還、生活の再建を目指す「特定帰還居住区域」という新しい区域制度を創設したいと考えています。

与党の復興加速化本部から復興に大きく貢献している大熊町、双葉町においては令和5

年度から一部の地域で除染に着手できるような取り組みと提言をいただいています。

政府として除染に必要な予算をしっかりと計上し、全力で取り組んでまいります。

町からの説明

町としては帰還意向調査の結果をおおむね把握しているので、先行して除染する地区を検討してきました。

モデル事例として速やかに実施できるように比較的線量が低く特定復興再生拠点区域に隣接し、インフラ復旧も行きやすいなどの観点から、下野上1区を先

行除染する地区と考えています。

今後国と協議していくが、他の地区においても先行する地区に大きく遅れることがないよう進めてまいります。そのため先行除染する地区の選定を町に一任いただきたいと思います。

主な質疑の内容

問 中間貯蔵施設を受け入れた町に対し、帰りたいたい人だけに除染するというのは納得できない。全区域の除染を実施すべきだ。

国からの答え

町、議会から全域の解除除染について強く要望をいただいている。しっかりと受け止めていかなければと考えている。

問 特定帰還居住区域の位置づけについて、

線量が下がればこれまでの拠点区域と同様、避難指示解除の措置になるのか。

国からの答え

今後の進め方として拠点区域と同様の考えで進めていく。

町から区域設定の計画が出されれば除染計画を策定し完了した区域から避難指示を解除していく。

町からの答え

問 下野上1区を選定したのは妥当と思うが安心して生活できるような幹線道路の際除染も実施すべき。

当然住宅だけの除染では生活できないというの理解している。特に道路の除染は広く取り、計画を策定するうえで帰る方が安心できるような国と協議していく。



先行除染が始まる下野上1区周辺

ふたばワールド 大熊で開催



大熊町でみなさんをお待ちしています

令和5年第1回双葉地方広域市町村圏組合議会定例会が開催され10議案を審議し全議案原案通り可決しました。
新年度予算では43億2518万円と定め、その中から主な予算内容を報告します。

ふたばワールド

5392万円

双葉郡各町村民の交流の場を創出し、ふるさとふたばの絆を繋ぎ、復興に向けた意識の高揚を図るイベントです。
今年は大熊町で開催されます。

郡立診療所管理運営委託

1億4618万円

勿来、好間に設置している郡立診療所の運営費です。
一般社団法人双葉郡医師会へ委託しています。

斎場費

1820万円

双葉町で再開した斎場「聖香苑」の施設運転管理委託費です。

南部衛生センター焼却施設整備

14億4377万円

檜葉町に設置している焼却施設を更新する事業費です、令和6年度末に完成予定です。

消防自動車整備費

1億6090万円

化学消防車、高規格救急車、救命ボートを更新する費用です。

令和5年第1回双葉地方水道企業団議会定例会が開催され、5議案を審議し全議案原案通り可決しました。
その中から主な事業を報告します。

西工業団地、下野上地区水道管整備負担金

2億2799万円

西工業団地や下野上地区の生活用水を通水するための水道管整備事業です。

県道いわき浪江線配水管移設工事

8751万円

県道いわき浪江線（大熊町役場入り口付近）の道路拡張に伴い配水管を移設する工事です。



役場入り口交差点

感謝の気持ちでいっぱいです

梨の実サロン平



体もリラックス



心もリラックス

『梨の実サロン平』は、2015年1月25日いわき市に町民の交流拠点として開所しました。避難し離れてしまった町民の皆様の集いの場所として、また手芸教室や料理教室、体操教室、カラオケ、卓球など、さまざまなイベントを開催してきました。これまでたくさんの方々にご利用いただき、久しぶりの再会を喜びあったり、新しい交友関係を築いたりとたくさんの出会いの場となっていました。

皆様に支えられながら8年間続いてきましたが2月28日をもって閉館することとなりました。

残念ではありますが、たくさんの方々にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。今まで温かく見守ってくださり本当にありがとうございました。

松崎 幸恵・松本さゆり・木田 景子



お世話になりました

傍聴に来てください 6月定例会は7日からの予定です

発行責任者 吉岡健太郎

委員 廣嶋公治

委員 阿部光國

委員 西山英壽

委員 島原健二

委員 石井和弘

副委員長 渡辺誠

委員長 佐藤照彦

広報公聴常任委員会

3月4日に長男が高校を卒業しました。卒業式にて、どんな困難にも負けず会津の地で小中高校と12年間、歯を食い縛り頑張りぬいてきた長男の凛々しい姿を見ていて、とても誇らしく、とても愛おしく涙が溢れました。

帰りに長男から「ずっとありがとう」と一言。

長男を思いっきり力いっぱい抱きしめました。

心の中で「ごちうらの方こそありがとうございました。力強く育ててくれて、良い子に育ってくれてありがとう。今までも、これからも大事な大事な大切な宝だよ。大好きだよ。」と叫び、涙が止まりませんでした。

4月から大学生です。

この子達、大熊っ子の本当の帰るべき場所、そして未来を守りぬかなければと改めて胸に刻み込みました。

ちなみに、抱きしめた時に長男の方が肩幅が広く、さらに嬉し涙がいつまでも流れていました。

西山 英壽

編集後記